



新しい日常とキャンパスライフ

学生担当 宮崎 真至

この4月から、学生の生活の場が、歯学部本館を中心としたものとなりました。講堂、実習室あるいはラーニングcommonsといった学びの場も、より一層利用しやすくなりました。また、狭いながらも開放感のあるラウンジでは、特に昼時には多くの利用者がいるようです。新型コロナウイルス感染症の流行によって、日々の生活には様々な制約がありました。しかし、コロナ禍以前と同じということは望めないかもしれませんが、少しずつ日常のキャンパスライフを取り戻しつつあるようです。やはり、多くの人と交わることによって、情報を交換し合うことは大切であり、そのことが日々の悩みなどを解決することにもつながります。また、課外活動も、条件付きではあるものの再開されました。歯学体も、2年ぶりに開催が予定されており、多くの学生も楽しみにしているものと思われます。学修とともに課外活動を充実させるためにも、日頃から時間を大切に使うことを心がけてください。

一方、新しいキャンパスではありますが、アメニティーや設備の充実を望む声もあろうかと思えます。これに関しては、学生のキャンパスライフの充実という観点からもしっかりと対応したいと考えています。よりよい環境を、学生とともに教職員で構築できればと考えております。

(教授 歯科保存学第I講座)



歯学部開講式

令和4年度歯学部開講式は、4月2日(土)本館大講堂(創設百周年記念講堂)において、新入生128名を迎えて挙行されました。

本田和也歯学部長からの式辞があり、新入生を代表して伊藤開さんが「誓いの詞」を述べました。

令和四年度日本大学歯学部開講式



【新入生128名の内訳】

男子76名(60%)、女子52名(40%)、現役69名(54%)、既卒等59名(46%)、一般選抜入学者80名(A方式57名、N方式第1期5名、同第2期9名、C方式第1期2名、同第2期7名)、学校推薦型選抜(付属高等学校等)20名、(公募制)12名、校友子女選抜16名

出身高校数105校:長野日本大学5名、日本大学櫻丘、日本大学第二、千葉日本大学第一 各3名、日本大学、日本大学習志野、土浦日本大学、巣鴨、秀明、四天王寺、女子聖学院、青山学院高等部、大船、富士、國學院、東京都立大学等々力 各2名 ほか89校等

出身高校の所在地別入学者数:東京35名、神奈川13名、埼玉、千葉 各10名、長野9名、愛知5名、宮城、福島、山梨、大阪、岡山 各3名、岩手、山形、茨城、栃木、群馬、岐阜、静岡、山口、福岡、鹿児島、外国の学校等 各2名、北海道、秋田、石川、三重、和歌山、愛媛、長崎、宮崎、沖縄 各1名

大学院歯学研究科開講式

令和4年度大学院歯学研究科開講式は、新入生31名(うち社会人8名)を迎え、本田和也歯学研究科長及び鈴木直人研究担当出席のもと、4月7日(木)本学部4号館大会議室において挙行されました。厳粛な雰囲気の中、本田和也歯学研究科長からの式辞、続いて鈴木直人研究担当からの祝辞がありました。新入生を代表して新井聡美さんが「誓いの詞」を述べ、式終了後には修学及び研究等についてガイダンスが行われました。

既卒生に対する国家試験合格支援活動について

卒後教育担当 武市 収

2017年から、歯学部国家試験合格支援活動小委員会では同窓会のサポートを得て、既卒生に対する支援活動を行っています。3月の国家試験解説動画の配信を皮切りに、7月には臨床研修歯科医のマッチング支援、8月には模試(歯科学統合試験Ⅵb)の実施、10月から12月にかけて学内外講師による国家試験特別講義および特別実習を行っています。その他、質問事項への対応や国家試験願書作成のアシスト、図書館利用に関する対応や年末年始の自習室の開放などを行い、既卒生がしっかりと勉強できる環境を整備しています。

年度初めには、希望する支援内容のアンケート調査を実施し、支援内容のアップデートを図りました。また、学修および生活状況を把握する目的で担当者制を実施しており、委員一人が5～6名の既卒生を担当して一人一人に対する個別の対応を行っています。第116回歯科医師国家試験に全員合格できるよう、委員一丸となって支援して参ります。

(教授 歯科保存学第Ⅱ講座)



登院式を終えて

青木 真由



「君たちは、歯科医師になるのです」登院式で病院長が仰った言葉の意味を、考える毎日を送っています。

令和4年4月1日、百周年記念講堂。いよいよ臨床実習が始まるのだという期待や不安の入り混じった、ほのかに漂う緊張

感の中で登院式は執り行われました。まだ馴染まない院内着のアイロンの折り目に背筋を伸ばされながら、歯科医療人を志す者として求められている責任と覚悟とを改めて痛感した次第です。

入学してから早4年、勉強や実習はもちろん、部活動や人間関係での云々など様々な出来事を経験してきました。そして4年間の学修の集大成であるCBT、OSCEを突破し、今年度は122名がStudent doctorとして臨床実習に臨むこととなりました。

臨床実習では、実際の現場で行われている先生方の診療を間近で見る機会が与えられています。自身の知識や技術の向上の場というだけでなく、教科書と臨床との乖離や、コミュニケーションや信頼関係の重要性を改めて感じるなど、忙しくも充実した日々を送っています。また一方で、年々難易度の増している国家試験に向けても、学生同士励まし合いながら乗り越えようとしています。想像していたより遥かに濃く密な時間を過ごし始めたからこそ、式での言葉の重みを感じずにはられません。

歯科医師になるとは、ということなのでしょう。国家試験に合格すること、というだけではないのでしょう。このまたとない環境から、臨床技術や臨床知識を最大限吸収し、将来に生きる力を身につけ、心身ともに成熟していかねばなりません。学生一人一人それぞれ異なるであろう答えを、この貴重な1年を通して見つけたいと思います。歯科医師としての将来像を思い描きながら、目標に向かい日々努力研鑽を重ねていく所存です。先生方におかれましては、ご指導ご鞭撻の程を何卒よろしくお願いいたします。

(第5学年)

後援会総会

6月11日(土)に本館大講堂(創設百周年記念講堂)において、父母を会員とする歯学部後援会総会が行われました。新型コロナウイルス蔓延の影響を受け、平成31年度以降3年ぶりに対面での開催となりました。

開催に先立ち公務で欠席された本田学部長の代理として米原学部長、横江後援会会長より挨拶がありました。林学務担当からは、学務関係に関する報告として、歯科医師国家試験・本年度のコロナ禍における授業実施状況・共用試験について、また、宮崎学生担当からは、学生生活関連に関する報告として、学生支援・学部行事・課外活動などについての話がありました。

総会の議事である令和3年度決算及び事業報告、令和4年度の予算案及び事業計画、役員選出に関する件等すべての案件が承認されました。その後行われた学年別懇談会では、学年主任及びクラス担任だけでなく、学務委員会の先生方を各学年に配置して、学生生活や今年度の予定等が報告されました。



第115回歯科医師国家試験合格発表を終えて

学務担当・学習指導委員会委員長 林 誠

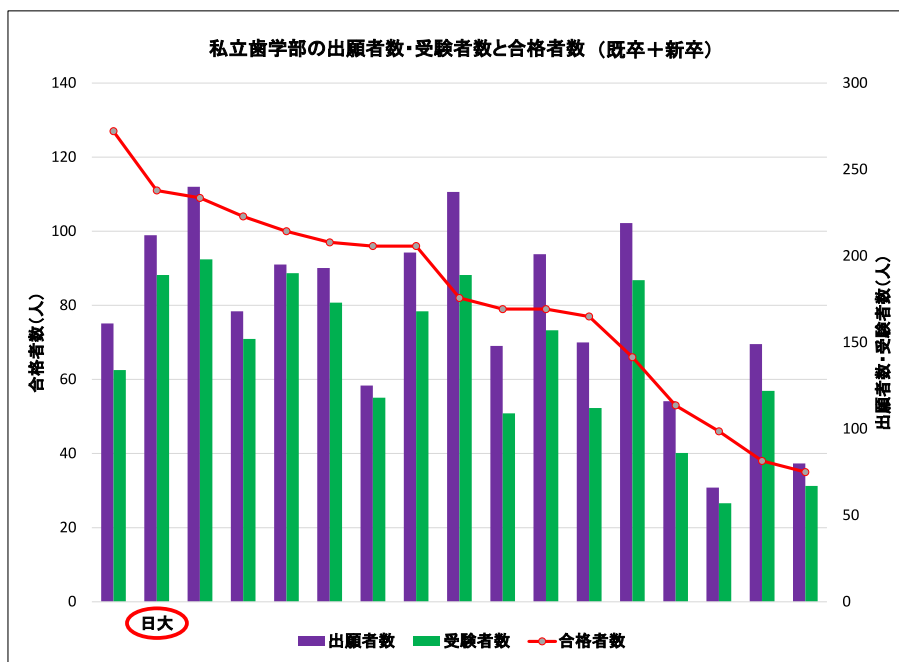
東京都に3回目のまん延防止等重点措置が発出されている中、第115回歯科医師国家試験は1月29、30日の2日間の日程で実施されました。本年も昨年の緊急事態宣言下での国家試験にならぬ、教員やクラブ活動の後輩等による大勢での激励セレモニーは自粛し、静かな当日の朝を迎えました。令和3年度の第6学年の授業はコロナ禍2年目であったことから、感染対策に細心の注意を払いながら、可能な限り対面で授業を実施してきました。しかしながら、コロナ禍前と比較するとある程度の制限は残りましたので、モチベーションや集中力の維持などに苦労しながらも、6年生は最後までよく頑張って学修し受験してくれたと思います。

さて、3月16日に歯科医師国家試験の合格発表がありました。全国の合格率は61.6%（新卒77.1%、既卒35.6%）で、昨年より3.0%低下しました。国公立大別では、国立72.4%、公立76.8%、私立58.0%であり、本学の合格率は58.7%（新卒69.7%、既卒40.0%）で新卒では昨年を15.9%上回り、私立歯学部17校中第11位の結果でした。近年、厚生労働省は合格率算出の分母となる受験者数以外に、試験に出願した出願者数も公表しており、受験の出願をしたが実際には受験しなかった（できなかった）学生数が算出可能となっております（下図における紫と緑の棒グラフの差）。出願者数を分母にした場合の新卒合格率は、私立歯学部の平均は58.4%であり、本学では59.7%で私立歯学部17校中第8位の結果でした。また、本学

の合格者数は全国歯学部29校中第2位の結果となりました（下図における折れ線グラフ）。

近年の歯科医師国家試験は、より本質的な理解を問う問題、教科横断的な問題などが出題されております。また、学んだことを臨床的問題解決に役立てる力も問われております。これらをふまえ、時間的制約の中でより効率的に知識や応用力を定着させることを意識し、本年度は様々な改訂を行うことといたしました。まずは臨床科目の演習を臨床実習アドバンスと並行して行うことにいたしました。その上で、学生の理解不十分な内容を臨床実習担当の全ての先生方に周知し、臨床実習内にその点を強調していただく事等を行うことにいたしました。また、演習とその後の復習でまだ抜け落ちている知識を早期に気づき、取りこぼしをできるだけなくす目的で毎週末に振り返り演習を行うことといたしました。その他、現第6学年の学生が受験する116回歯科医師国家試験では出題基準が変更になりますが、新出題基準に対応した評価方法の策定等、学習指導委員会を中心にさらなる充実を図っていく予定であります。

学生の皆さんは基本的知識と柔軟な問題解決能力を確実に修得するため、低学年から努力を怠らないで欲しいと思います。そのためには、国家試験の勉強は第6学年から始めるのではなく、知識の集大成であることを忘れず、目的意識を持った学生生活を過ごすことが重要となります。（教授 歯科保存学第Ⅱ講座）



研修歯科医の採用について



卒後教育担当 武市 収

日本大学歯学部附属歯科病院では、これまで時代のニーズに即した研修システムを構築し、様々な研修カリキュラムを実施してきました。そのため、学内のみならず、学外の卒業生からも好評を得ており、毎年多くの研修希望者によるマッチングを行っております。

研修歯科医は当歯科病院の総合診療科に所属し、管理型臨床研修施設（日本大学歯学部附属歯科病院）における研修を基本としながら、100を超える協力型臨床研修施設において臨床経験豊かな厳選された指導歯科医のもと、様々な診療に従事することが可能です。歯科治療における適確な診査・診断が行え、それに必要とされる技能の習得ができるよう、多彩なコースを用意しております。

SCOPRコースでは、管理型臨床研修施設と協力型臨床研修施設で研修を行います。管理型臨床研修施設では、口腔外科、補綴科あるいは保存科で研修を行うため、広く一般歯科臨床を学ぶことが可能です。CDコースでは、管理型臨床研修施設内の口腔診断科および総合診療科で12か月間の研修を行い、指導歯科医の指導の下、初診から治療終了まで総合的な診療にあたります。また、今年度から協力型施設Ⅱへの短期研修も可能となり、研修の幅が広がりました。

この他の短期研修として歯科矯正科、小児歯科、摂食機能療法科、歯科放射線科などの診療科や島しょ地区（伊豆諸島）での離島診療研修、保健所および東京都心身障害者福祉センターでの研修が可能ですので、非常に自由度が高いプログラムとなっております。

このように、学部教育で習得した歯科診療に関する知識、技能および態度を臨床の場に結びつけ、歯科医師としての基本的診療力が身に着くよう、卒前・卒後教育を結びつけるシームレスな教育を行っています。当歯科病院での研修により、歯科医学および歯科医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、様々な症例に対応できるよう、総合的な判断力と知識・技術を習得できる人材を育成して参ります。

（教授 歯科保存学第Ⅱ講座）

歯科医師臨床研修を終えて

泉田 拓郎

日本大学にて1年間の臨床研修が終わりました。私は専門診療科3ヵ月・協力型9ヵ月のコースを選択しました。専門診療科では大学病院に紹介されてくるような難症例の見学、専門の科同士の医療連携による治療計画を聞くことができました。協力型では医療接遇や治療説明の仕方、実際に治療も経験させてもらって熱心に指導していただきました。

最後になりますが、改めて思い出してみると、とても有意義な時間を過ごせました。先生方には感謝致します。（本学部卒業）



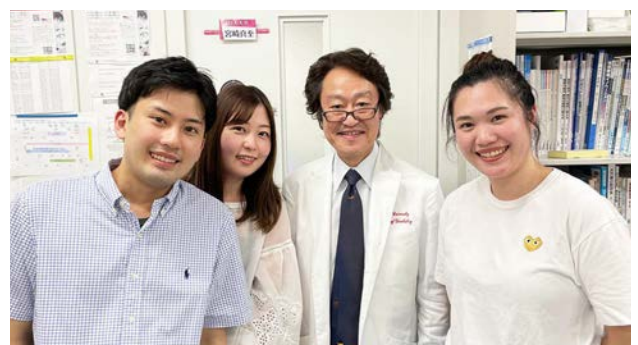
臨床研修を終えて

林 佳奈

私は3か月協力型施設、9か月専門診療科で研修を行いました。専門診療科ではその科でしか学ぶことのできない治療を先生方のご指導のもと行わせて頂きました。自分のやりたいことが定まっていまいませんでしたが、この1年を通して学びたい分野に出会うことができました。

新しい環境での研修で不安な気持ちがありましたが、温かく迎えてくださり充実した1年間を過ごすことができました。研修で出会った先生や友人に感謝し、研修期間に学ばせて頂いた貴重な経験を今後の歯科医師人生に役立てたいと思います。

（他大学卒業）



第1学年オリエンテーション

「学修・学生生活について考える」をテーマに、4月15日、16日の両日、第1学年オリエンテーションが開催されました。初日はオンライン会議システムを用い遠隔で、16日は本館121・122講義室にて対面での実施となりました。「学部要覧」に記載された試験や成績評価に関する内容等、学務関連の情報について、第1学年に配置された学務委員会委員より丁寧な説明がなされました。また、上級学年の学生が、様々な観点・立場から、学生生活を充実させるためのアドバイスをくれました。

学務関連情報提供

学年配置学務委員会委員・第1学年クラス担任
好士 亮介

学生を取り巻く環境は各学年によって異なります。そこで主に学業面を担当する学務委員会では学年毎の状況を把握・対応するために、本年度より各学年に専属となる「学年配置学務委員会委員」を配置しました。第1学年では渡辺委員と私がクラス担任を兼任する形で担当しております。

授業が始まり、少しずつ新生活に慣れ始めた頃、「学修・学生生活について考える」をテーマに掲げた第1学年オリエンテーションが4月16日と17日の2日間に渡り実施されました。

1日目は、第一弾として「学部要覧」に関する情報提供をオンライン会議システムで行いました。「学部要覧」はシラバス、単位、成績、進級といった内

容が記載されており、日本大学歯学部における学業・学生生活の指針です。この内容を理解することは極めて重要であり、渡辺委員の説明にも熱が入っていました。アイスブレイクを兼ねた自己紹介の後、少人数のグループに分かれ、「学部要覧」に関する課題について学生同士で話し合ってもらい、さらに理解を深めてもらいました。

2日目には対面にて1日目の課題の解説を行った後、学務関連の情報提供の第二弾として、歯科医師として自立するまでの過程に関する情報提供を行いました。令和6年度より公的化されるCBT・OSCE、診療参加型臨床実習、歯科医師国家試験や卒業後の歯科医師臨床研修などについて説明し、歯科医師になるまでの道のりをイメージしてもらいました。

大学における学業の仕組みやルールを理解することは効率よく学んでいくための第一歩です。「学習」から「学修」へ転換し、「自主創造」の理念に即した力を学生が習得し、充実した学生生活を送れるよう祈念しております。

(専任講師 医療人間科学分野)

上級学年からのアドバイス

1. 学修面について

清水 一帆

今回の第1学年オリエンテーションでは、遠隔授業についてだけでなく、学修面についても話しました。初めに遠隔授業に関してですが、スケジュール管理と友人関係の重要性が最も私から伝えたかったことです。1年生はテストや課題が多く特に不安だと思います。そこで、課題やテストの日程を把握し計画的に勉強に臨み、共に高めあえる友人関係を築

くことが重要です。また、学修面に関しては、知識の統合の重要性について話しました。これは私が入学してから2年間を通じて、また先輩や先生方に話を伺う中で強く感じたことです。高校生や1年生の時の知識は学年が上がっても必要となるため、科目にとらわれない勉強が必要になると思います。

コロナ禍から、徐々にできることが増えてきた今、私達の話が少しでも、これからの生活に役立てば幸いです。(第3学年)



本館121・122講堂での様子

澤田 昌志

私は、遠隔授業に臨むにあたりiPadの上手な使い方や個人的にインストールを推奨するアプリについて話しました。およそ2年前、私が入学すると同時に遠隔授業が始まりました。当時は経験したことのない授業形態に慣れず、とても苦労した記憶があります。1年間にわたり試行錯誤を繰り返した結果、2年時にはiPadやデジタルノートアプリを上手に使いこなせるようになり、対面授業よりも遥かに効率よく勉強できるようになりました。そのため、新入生が抱えている精神面、学修面での不安やストレスの軽減、トラブルなく円滑に授業を受講できるようという強い思いでお話させていただきました。遠隔授業には対面授業にはない利点がたくさんあります。私達の意見も参考にいただき、自ら考えて困難な状況を乗り越えてくれることを願っています。

(第3学年)

2. 学習向上委員会について

今仲 晏智・江本 日向子・川崎 泰誠

私たちは第2学年の代表として、一年次の後期から半年をかけて取り組んできた「学習向上委員会」の活動について発表しました。

昨年度、私たちの授業は実習を除き、ほぼ全てが遠隔で行われました。一年間の遠隔授業の中で、一番困ったことは学修面についてでした。直接先生に質問をすることができない状況や遠隔授業という慣れないスタイルの中で、試験で結果を出さなければならぬという日々不安やストレスを感じていました。

そこで、夏休み以降に「学習向上委員会」という組織をクラス委員が中心となって設立しました。この組織は、学生の自主性を大切に活動することを前提に、仲間同士で助け合って学修し、学力向上を目指すことを目標に設立されました。主な活動内容として、授業のまとめ資料の作成と共有、オンライン会議システム「zoom」を用いた先生に直接質問できる勉強会の開催を行いました。

この組織を設立することは決して簡単ではありません

でした。学生の自主性を大切にする事の難しさや活動を理解してもらう事の厳しさなど様々な困難がありました。しかし、最終的には、この活動を新入生に対して発表することができる段階まで作り上げることができました。『これからも諦めず頑張っていこう』、『後輩となる新入生をこのような活動を通して引っ張っていこう』といった強い気持ちで話をすることができました。歯科医師国家試験に合格することが最終目標ではなく、歯科医師となった後のことも視野に入れて入学時から自ら様々なことを考え、行動に移すことの大切さを今回の経験を通して再確認することができました。活動の更なる発展を目指していきたいと思えます。(第2学年)

3. 学生生活面について

山岸 佳子

私は、年間を通して行われる行事やクラブ活動などの話を中心に学生生活を充実させるためのアドバイスをしました。おそらく新入生の多くは、歯学部は勉強が忙しいというイメージを持って入学してきたと思います。実際、学業は大変ですが、私は様々な行事への参加やクラブ活動、他学部との交流によって大学生活をより良く、充実したものにできると考えています。

日本大学歯学部で行われる行事には、球技大会、桜歯祭などがあります。新型コロナウイルスの影響で、2年間の間、ほとんどの学生行事は開催されませんでした。先日3年ぶりに行われた球技大会はとても盛り上がりました。学年を超えた交流や同級生とのつながりが深まる良い機会だと改めて感じました。



第1学年学生のために話をしてくれた上級生

クラブの活動も今年度から再開しました。クラブ活動では同学年の仲間だけではなく先輩・後輩の縦のつながりができるのが大きな魅力だと思います。クラブと学修との両立が不安だという学生もいると思うのですが、私はむしろ生活にメリハリがつくと考えています。先輩から勉強などのアドバイスをもらえるので、クラブ活動があるからこそ勉強も頑張られています。また、他学部学生との交流は、多様な価値観や考えを学び、日本大学の規模の大きさを感じることができる貴重な機会となります。

オリエンテーションでは、行事・クラブ活動・他学部との交流を自分の体験談をふまえて紹介しました。1年生のみなさんに興味を持ってもらっていたら嬉しいです。今後の学生生活が充実したものとなるよう祈っています。(第4学年)

4. 学生会について

前学生会会長 福崎 愛

私からは学生会会長という立場で「学生会について」、「6年生として伝えたいこと」の2点について話をしました。

学生会については、どのような委員会から成り立っている組織なのか、また具体的に何をしているのかを説明しました。数年前の写真も示しつつ、コロナ禍以前の様子が少しでも伝わればと思いました。また、高校と大学の違いとして、学生主体で行事や学校生活を進めていくことを重点的に伝えようと心がけました。私自身6年間学生会に所属しましたが、表に立って学生会について話す機会があまりなかったため、学部と学生の連携を図っている組織があるということを具体的に話せて良かったと思っています。

6年生として伝えたいこととしては、入学してから今まで経験してきたことの反省点や良かった点などを自分なりに話しました。大学生活の楽しさや、乗り越えていかなければならない難しさを共有できていたら嬉しいです。

第1学年オリエンテーションで話をする機会をもらえると聞いた時、まずは1年生の皆さんに会ってみたいという気持ちに先に立ちました。どんな雰囲気なのかなのか、緊張しながら教室に向かったのを覚えています。全体的な印象として、話をよく聞く真面目な学年だと思いました。終了後、質問や話をしに来てくれたのがとても印象的でした。若くて、積極的で、輝いていて、私も本当に元気が貰えました。

クラブ活動も3年ぶりに再開しました。以前とは環境が一変しているかと思っています。特に1年生の皆さんは、素晴らしい伝統は守りつつ、時代に合った

新たな環境を作っていく世代になると思います。自主創造の理念のもと、より良い大学生活を一緒に作っていきましょう。(第6学年)

5. 第1学年オリエンテーションに参加して

今井 日菜子

初めての登校日から二週間ほどが経ち、第1学年オリエンテーションが行われた。当日までに自己紹介を考えてくるように言われ、少しばかり緊張して臨んだオリエンテーション。与えられるたくさんの情報に戸惑いながらも、自分がこれから歯学部生としてどう過ごしていったら良いのか、どんな目的や意識を持って学修に取り組んでいけば良いのか、そのようなことをじっくりと考えるための有意義な時間となった。

自己紹介の際に顔を合わせた学友たちは年齢も出身地も様々で、自分が新しい環境に置かれているという実感が湧いた。また、学務関連情報の提供では進級の要件や評価の方法などを詳しく把握し、生徒ではなく学生として主体的に学ぶ姿勢を身につけることの大切さや、今までとは違う状況下で学修を行うことの難しさと向き合うこととなった。オリエンテーションで抱いた新鮮な緊張感を忘れず、歯科医師になるという大きな目標を達成できるように学年全体で協力し、努力していきたいと思う。

(第1学年)

小石 凌輔

新生活が始まり2週間、効率的な勉強方法や生活スタイルを模索している中、上級学年の先輩方から多くのアドバイスをいただいた。私にとって印象的だったのは、先輩が活用しているアプリの紹介と、1年以上オンライン講義を受ける中で確立した自宅での過ごし方である。今までiPadを活用したことのなかった私にとって、講義や課題、資料の管理、学修をiPadで行うことに、とても不安があった。しかしながら、紹介されたアプリは私の学修に大いに役立つものであった。また、先輩の自宅での過ごし方の工夫を、自身の生活に合わせながら組み込んだことで、現在の規則正しい生活に繋がっているように思う。

生徒ではなく学生として自ら学修を進めたり、行動を起こしたりしていかなければならない環境に戸惑っている時こそ、こうした先輩方のアドバイスを真摯に受け入れ、まずは模倣し、そして自身に合った形に変え実践していくことの重要性を学べた良い機会だった。(第1学年)

勧誘イベント

クラブ協議会会長 平田 隼輝



本年は3年ぶりに、新入生を対象とした勧誘イベントを行うことができました。

例年の勧誘イベントでは10日間程の期間を設けて、体験練習や食事などに出かけて各部の雰囲気味わってもらっていましたが、

本年の勧誘イベントは、新型コロナウイルスの感染対策を鑑み、学校の講堂や実習室にて各部ごとに区切られたブースを設けて、新入生に好きなクラブを選んで来てもらい、そこで説明会やお話するという形式で行いました。

今回、対面で勧誘イベントを行えたことは非常に大きな意味があります。昨年はzoomにて説明会を行うに留まりましたが、今回対面で勧誘イベントを行えたことにより、GW以降の部活動再開へ向けた大きな一歩となりました。

zoomでの説明会時に、下級生からはやはり対面で行って、先輩や活動の雰囲気を味わいたいとの声が届いていたので、今回それを実現でき、会長としてとても嬉しく思います。

現在、部活動が再開され、学校に活気が戻ってきたように感じます。

これからも学生生活を部活動の面から盛り上げていけたらと思います。(第5学年)



左：クラブガイダンスで説明をする会長
右：各クラブのブースをまわる1年生

部活動がはじまって

青木 知香

私は大学で新しいことを始めようと思っていました。そこで、水泳部に入ることを決め、昨年の10月に仮入部をしてから、活動が始まることを楽しみにしていました。そして、ようやく今年の5月から部活動が再開されました。コロナ禍で対面授業が少ない中、同級生や先輩、後輩と関われる機会ができ、大変嬉しく思っています。水泳部の活動は、週1、2回行われています。練習はレベル別に分かれており、私は先輩が考えてくれた初心者のメニューに取り組んでいます。大会に向け、一生懸命練習に励んでいきたいと思います。また、先輩には、勉強の相談にもしてもらっています。ノートを見せていただいたり、アドバイスをいただいたりしています。このことは、私の大学生活の大切なサポートとなっており、先輩に感謝をしています。

クラブに所属したことで、昨年よりも楽しい日々となりました。これからも勉強と部活動を両立させ、充実した大学生活を送っていきたいです。

(第2学年)



勧誘の様子

球技大会を終えて

球技大会実行委員長 井上 和貴

本年度の球技大会は3年ぶり、コロナ禍の中での開催となりましたが、大きなトラブルや怪我もなく無事に終わることが出来ました。大会を終えて感じたことは、実行委員の仲間、教職員の方々と協力してひとつの行事を作り上げることの楽しさと、参加してくれた学生が楽しんでいる様子を見ることで得られるやりがいでした。

感染対策のため競技数を減らさざるを得ない状況でしたが、会場に足を運んでくれた全員が参加したと感じられる内容を取り入れました。球技大会参加者数の減少を食い止めると同時に、皆に楽しんでもらうことが出来たと感じています。一方で、反省すべき点は学生への指示が届いていなかったということです。来年はそのような反省点を含めて、全員が参加したと思えるような球技大会を、次期委員長が中心となり作り上げてくれればと思います。

最後に、開催するにあたり協力していただいた教職員の方々、実行委員の学生の皆に御礼申し上げます。ありがとうございました。(第5学年)



井上実行委員長、保津・山岸両副委員長



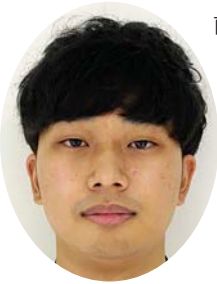
球技大会に参加して

佐藤 太

新型コロナウイルスの影響を受け、1,2年時は球技大会が開催されず、3年生になって初めての参加となった。球技大会には新入生歓迎の意味も含まれており、今回は1年生から3年生を歓迎する少し特殊な大会となった。コロナウイルス感染症拡大防止のための制限はあったものの、第3学年からは男女共に多くの人に参加し、終始良い雰囲気の中で球技大会を楽しむことが出来た。他の学年の学生も、団結して、声を掛け合いながら競技に参加していた。友達の普段の大学生活では見れない一面を見ることができたり、今まであまり関わったことのない人と話す機会があったり、新鮮な雰囲気を感じる事ができた。我々3年生は、新型コロナウイルスの影響でまだ経験出来ていないことも多々あるが、後輩がいる立場である。その自覚を持って、今後の大学生活を送ってきたい。球技大会は学業とは直接関係のないことかもしれないが、あの良い雰囲気を学年全体で保ちながら、学業に励みたい。(第3学年)



第54回 全日本歯科学生総合体育大会



歯学体正評議委員 高泉 淳大

前回の第51回全日本歯科学生総合体育大会は総合2位という結果で非常に惜しい結果となりました。

今年は新型コロナウイルスの影響でクラブとしての練習が例年と比べると少ないと思われませんが、短い時間で多くを吸収し本大会で出せる限りの力を出せる様願ってます。1年から3年生の皆さんは入学して以来初の大きな大会だと思いますが気負わずに楽しんで次の年の大会で自分が先輩となった際に後輩に素晴らしさを伝えられる様に多くを見てきて下さい。一年に一度の大会であり5年生は最後の大会なので悔いの残らない様全力を出し切ってください。新型コロナウイルスの影響で中止となった2年間の分まで楽しんで下さい。勝ちにこだわるのもとても大切だと思いますが、楽しんでプレイすれば自ずと良い結果はついてくると思っています。本大会に出場される皆さんを評議委員として可能な限りサポートしたいと思っています。よろしくお祈いします。(第4学年)

学生会から

学生会会長 丸山 佳人



本年度、学生会会長を務めることになりました学部5年の丸山佳人です。このような時代だからこそ、皆様の力をお借りしながら、日々精進して参りたいと思っています。

学生会の主な活動には『しゃべり場』があります。『しゃべり場』では、学生が教員や職員と共に、決められたテーマについて話し合います。それ以外にも、学生会は各学年のクラス委員と普段から連絡を取り合い、様々な意見の取りまとめを行なっております。

また、今年度から、各学年で自主的な学生による学修組織を立ち上げ、上級生が下級生に勉強のアドバイスを行うような勉強会もできつつあります。これを機に、学生同士が交流を深めつつ、より学びの深い学生生活を送れるのではないかと考えております。今後も活動の幅を広げていきたいと考えております。短い間ではありますが、よろしくお祈いいたします。(第5学年)

桜歯祭にむけて

桜歯祭実行委員長 大友 侑



今年度の桜歯祭は10月7日・8日の2日間開催されます。桜歯祭とは本学における年に一度の学部祭です。3年前の桜歯祭の2日目は、台風による影響のため中止となり完全な桜歯祭はできませんでした。対面で行う桜歯祭は実に3

年ぶりです。コロナ禍の影響で学生生活も大きく変わり遠隔授業での学修が長く続き学生達は同学年や先輩、後輩そして先生方との交流が思うようにできませんでした。この現状を踏まえて今年度の桜歯祭は、この空白の3年を前向きに捉え新しい桜歯祭の歴史を私たちが作り、歯学部本来の活気を取り戻し、生まれ変わった気持ちで新たな桜歯祭の歴史を歩んでいきたいと考えております。また今までの企画を現状に合った企画に練り直し、新しい企画も立案し準備を進めております。感染対策を万全にし、本学部生はもちろんのこと桜歯祭に足を運ばれた方々にも思い出に残る楽しい桜歯祭にしていきたいと考えております。桜歯祭へのご来場を心よりお待ち申し上げます。(第4学年)

いちにち歯医者さん

企画長 坂口 結菜



新型コロナウイルスの影響もあり、中止となっていた桜歯祭が3年ぶりに開催されることになりました。桜歯祭の企画の1つとして「いちにち歯医者さん」を行います。

「いちにち歯医者さん」では、歯科の治療で普段使われている材料でストラップを作るコーナーや、普段なら中々体験することができない歯医者さんが使用する材料や器具を使って型取りをして、模型を作るまでを実際に体験することができるコーナーなど、歯科をより一層身近に感じて頂けるような企画を用意しております。

新型コロナウイルスへの感染対策をしっかりと行った上で学生はもちろん、来場された方々全員が楽しんでいただけるように実行委員一同準備を進めております。歯科のことを知りたい方や、歯科に少しでも興味がある方、実際に体験してみたい方、近くを通りかかった方、是非日本大学歯学部へお越しください。多くの皆様のご来場を心よりお待ちしております。(第5学年)

※桜歯祭・いちにち歯医者さんの報告は、217号に掲載予定です。

いま夢中です、
この仕事!

実は近いところにあった 幹細胞



菊入 崇

私は2021年10月に北海道大学大学院歯学研究院/大学院歯学院 口腔機能学分野 小児・障害者歯学講座(以前はシンプルな名称だったのですが、少しづつ長くなり気づけばこんなに

複雑な名称になっていました。結局、一度も正確に言うことが出来ないまま退職して来ました)から本学に移ってきました。臨床では小児と障害者の歯科治療を、研究では幹細胞研究を行なって来ました。

私が幹細胞の研究に興味を持ったのは、“SHED: stem cells from human exfoliated deciduous teeth. Proc Natl Acad Sci U S A. 2003.” 乳歯の歯髄に幹細胞が存在することを報告したこの論文でした。ちょっと話は逸れますが、幹細胞にはその由来や未分化状態によって大きく3つに分類されます。それぞれ、胚性幹細胞 (ES細胞)、体性幹細胞、iPS細胞に代表される人工多能性幹細胞となります。以前から、骨髄中には、体性幹細胞として造血幹細胞が存在することは知られていましたが、その当時はまだ造血幹細胞以外の体性幹細胞の存在を疑問視する意見もあり、ましてや乳歯の歯髄組織に幹細胞が存在するとは誰も想像していませんでした (ちなみに山中教授のiPS細胞の発表は2006年となります)。せっかく小児歯科に関わっているのだから、このような研究を行いたいと考える様になりました。その後、多くの幸運が重なって、2006年にこの論文の著者であるShi教授のラボに留学することが出来ました。Shi教授からは幹細胞研究以外にも、多くのことを教わりました。教わったことなかで自分が一番大切にしているのは、「研究はその人の人生観を表している」ということです。現在、帰国後も継続して行なってきた乳歯歯髄幹細胞の研究を一つの形としてまとめ挙げることを大きな目標としています。(准教授 小児歯科学講座)

いま夢中です、
この仕事!

「DNA研究に夢中！」



岡野 雅春

私が夢中になっていることはDNAを用いた研究であり、これまで身近な動物たちを対象としてきました。まず魚類のコイについて、免疫機構において病原体の認識に関わるT細胞受容体の

多様性生成メカニズムを、ゲノムDNAを用いて明らかにしてきました。コイは、染色体の総数が他魚種の2倍多い特徴からT細胞受容体の候補となる遺伝子群も極めて多数であるため、多様な病原体を認識できる魚種と考えられました。また、伴侶動物のネコについて、ネコ白血球抗原(ヒトではHLAとも呼ばれる)の解析法開発に取り組んできました。HLA解析は、臓器移植前の組織適合性検査や自己免疫疾患の診断のために、ヒト臨床医療では当たり前に行われていますが、これをネコの獣医療でも実現するために日々研究していました。

現在私が身を置く法医学の領域では、ヒトを対象にしたDNA鑑定によって遺伝情報が調べられ、個人の特定に応用されています。実際に、DNA鑑定の結果は、警察の捜査や裁判において証拠のひとつとされる場合や、大規模災害等において身元不明のご遺体を家族へ返還するために利用されています。興味深いことに、ゲノムDNAは、遺伝情報が記されているだけではなく、その人が置かれた環境が原因となる化学的な修飾を受けることがあります。「修飾」という言葉が表すようにDNA上に「目印」や「マーク」が付加されるさまに例えられ、日常的な喫煙や慢性疾患によってゲノムDNAのある特定の場所が修飾されていることが知られています。私は、ゲノムDNAの化学修飾からその人がどのような生活をしてきたかを特定することが、法医鑑定への応用につながると考えてDNA研究に励んでいます。(助教 法医学講座)



新事務局長紹介

就任に当たって



事務局長 筒井 仁

5月22日付の人事異動で薬学部から異動となり着任いたしました。これまで芸術学部、経済学部、本部学務部、三軒茶屋キャンパス、薬学部で勤務してまいりましたが、それ

ぞれの学部カラーがあり、本大学の多様性を象徴していると感じております。歯学部は前任地と同様に、学生の国家試験合格を最低目標として、学生の教育を行う学部と認識しており、これまでの経験を活かして少しでも貢献できればと思っております。

歯学部では、本年4月に新校舎として本館の運用が開始されたばかりということですが、大学本部から「将来の校舎等建替えに備えた資金積立計画（50年計画）」を策定するよう依頼がありました。直近では建設から約37年が経過した3号館の建替えから始まり、4号館、さらには竣工したばかりの新病院を含む本館を将来建て替えるため、それまでの各種修繕工事等を含む必要な資金計画を策定する必要があります。計画の策定に当たっては、教職員はもとより、関係各位の御協力が欠かせません。今後とも皆様の御協力並びに御支援をいただきたく、どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、文部科学省のデータによれば、令和4年（2022年）に112万人だった18歳人口は、令和22年度（2040年）には約88万人、大学進学率は一貫して右肩上がりとしても57.4%で、大学進学予測者数は51万人です。将来推計資料では2065年度の18歳人口は69万人という数字です。

ところで、令和3年（2021年）の出生数（速報値）は84.2万人ですので、18年後（2039年）はこの数字以下となり、文部科学省の推計よりも少子化が現実には数年も前倒しの状況で進んでおり、大学にとっては相当厳しい時代が目前に迫ってきているといえそうです。

第74回日本大学 歯学会総会・学術大会

5月15日（日）から29日（日）の期間、動画配信において、日本大学歯学会総会・学術大会が行われました。学術大会での発表演題数は特別講演2題と一般講演16題でした。特別講演では歯科矯正学講座本吉満教授が「歯科矯正用アンカースクリュー（OAS）の基礎と実践」を歯科放射線学講座新井嘉則教授が「日本大学歯学部100年の歴史と歯科用コーンビームCTの開発」を発表されました。また、一般講演ではこれまで研鑽した研究の成果を発表することで、若手研究者にとって有意義な場となりました。

総会は書面にて開催され、令和3年度決算・令和4年度予算を含む全案件が承認されたほか、後日、奨励賞授賞式が挙行され、小方彩乃（法医学講座）、桐原祐喜（口腔外科学第I講座）、尾辻盛（小児歯科学講座）、廣瀬健佑（小児歯科学講座）、星まなみ（小児歯科学講座）の大学院生5名が表彰されました。

奨励賞受賞者演題一覧

EDARADDを標的遺伝子とした歯由来DNAのメチル化率による年齢推定法の検討

●小方彩乃, 近藤真啓, 堤貫通, 網干博文

嗅脳溝と中大脳動脈を基点とした体部位局在地図

●桐原祐喜, 小林真之, 外木守雄, 藤田智史, 坐間学

新生児期外傷性ストレスによる顎顔面異常疼痛に対する性差の検討

●尾辻盛, 林良憲, 人見涼露, 篠田雅路, 白川哲夫

光遺伝学的手法による島皮質興奮性ニューロンの腕傍核外側部ニューロンに対する投射様式

●廣瀬健佑, 中谷有香, 松村幸恵, 白川哲夫, 小林真之

MECP2遺伝子変異を有するヒト歯髄幹細胞の特性解析

●星まなみ, 石山末紗, 伊藤寿典, 浅野正岳, 白川哲夫

実験動物慰霊祭

4月16日（土）、歯学部実験動物慰霊祭が両国の回向院で執り行われました。新型コロナウイルス感染防止のため、教職員及び学生の参列は中止とし、歯学部長、研究担当及び動物実験委員会委員長のみ立会い、本学部の教育や研究のために供された動物の冥福を祈りました。

■ 附属専門学校在

歯科技工専門学校

今春、歯科技工専門学校では、13名の新生をお迎えすることができました。新年度を迎えるにあたり、歯科技工専門学校の施設は、歯学部1号館から歯学部3号館へ引っ越しいたしました。第1学年は321講義室(旧第5講堂)、第2学年は322講義室(旧第6講堂)、第3学年は331講義室(旧第7講堂)で講義を受講し、全学年が第5実習室を使用し歯科技工実習を行っています。

新生から第3学年まで新たな環境で専門分野の勉強と実習に励んでいます。学習以外では、5月に行われた球技大会で、全学年混成チームを編成し、学年を超えた交流を深めることができました。



歯科衛生専門学校

令和4年度の歯科衛生専門学校は、本年度より校長に就任された口腔内科学講座岡田明子教授、清水康平教務主任、第2学年担任の満足愛専任教員、第3学年担任の國井知余専任教員、鈴木雅子専任教員、矢野杏佳専任教員、専門学校事務室の向井友美主事の教職員スタッフで構成されスタートしました。令和4年度の在校生は現在、第2学年32名、第3学年28名の計60名となっています。第2学年は登院に向け日々尽力し、第3学年は病院実習にて充実した日々をおくっています。5月19日に行われた第46回令和4年度日本大学歯学部球技大会では、第3学年が総合優勝の栄誉に輝きました。コロナ禍による専門学校生活ではありませんが、教職員一同、歯科衛生専門学校生が毎日充実したキャンパスライフを過ごせるように、全力でサポートおよび応援をしていきます。



歯学部進学相談会

第2回進学相談会(7月10日)は、3年ぶりに来校形式で実施いたしました。第3回も以下の通り実施予定となっております(感染症の流行状況で変更の可能性あります)。

	内容	定員	開催日時
第3回	全体説明会、個別相談、校内見学等	先着100名(予定)	8月20日(土)

● Webオープンキャンパス

歯学部ホームページで、模擬授業、校内見学動画を配信。また、入試に関する質問フォームを開設しています。

● 詳細は歯学部ホームページをご確認ください。

【問合せ先】

歯学部 教務課

03-3219-8002 E-mail: de.academic@nihon-u.ac.jp

歯学部インターネット回線の10Gbps運用について

歯学部ネットワーク委員会

日本大学では、インターネットに接続するために利用していたNTT東日本のダークファイバー(NTT東日本回線)のサービス終了のため、本部IT管理課主導による全学的な事業として、代替回線移設が各学部・附属高校で実施されることになりました。これまで歯学部ネットワーク回線は、日本大学病院の10Gbps回線に間借りしている状態で、日本大学病院までは附属高校と同等の1Gbps回線で接続して運用されており、16学部中で歯学部だけが10Gbps回線ではありませんでした。このため、代替回線移設の工事では本線を10Gbpsとし、さらに1Gbpsバックアップ回線を追加した新たな回線を敷設して、10Gbps回線が障害で不通となってもインターネットへの接続が担保される設計としました。

代替回線移設では、ネットワークセキュリティの要である新たなファイアーウォールの設置を含めた付帯工事が完了して、5月7日(土)からインターネット回線10Gbpsの本格運用を開始しました。また、1Gbpsの回線をバックアップとした回線の冗長化による運用も併せて開始しております。

これによりインターネットでの大容量で安定的な通信が可能となり、その結果、学生、教職員の接続環境が飛躍的に改善されて、教育、研究、学部業務の環境改善が図られ、歯学部ネットワークの新たな時代を迎えることができました。

専門学校進学相談会

●令和4年度進学相談会日程

	開催日	時間	場所
第3回	7月10日(日)	10:00~13:00 附属歯科技工専門学校 予約制 (当日参加も歓迎)	日本大学 歯学部 本館内
第4回	8月28日(日)		
第5回	10月8日(土) 駿技祭 翔衛祭	附属歯科衛生専門学校 完全予約制 予約電話 03-3219-8007	専門学校 講堂

※令和4年10月8日(土)については、個別相談と学校見学のみ実施

場 所：日本大学歯学部3号館

概要

- 個別相談：本学専任教員が各種相談を承ります。
- 校内見学：講義室、実習室等を見学します。
- 体験実習：技工操作の一部として金属の研磨体験が出来ます。(技工専門学校のみ)

※新型コロナウイルス感染拡大の状況により変更の可能性が有ります。



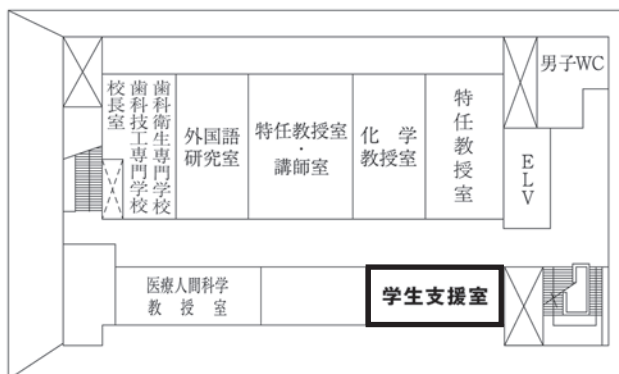
学生支援室より

学生支援室では、皆さんが充実した学生生活を過ごせるように、様々な相談に応じています。どんなにささいなことでも、気になることや困っていることがあれば、気軽にご相談ください。

電話相談【03-3219-8051(支援室直通)】

ご家族からのご相談も受け付けています。内容について秘密が漏れることは一切ありませんのでご安心ください。支援室は3号館7階にあります。月曜日の昼休みは、本学教員が、水・木・金曜日の10時~17時と火曜日の11時~18時は、日本大学本部学生支援センター所属の臨床心理士が相談を担当しています(曜日ごとに担当するカウンセラーが異なります)。

3号館7階



NewsPlus α

☆図書館開館時間

平日 9:00 ~ 21:00

土曜 9:00 ~ 18:00 ※日・祝休館

夏期間中も通常の開館時間です。

試験、イベント等により利用できない日時がありますので詳しくはHPのカレンダーをご覧ください。

<https://www.dent.nihon-u.ac.jp/library/>



☆定期健康診断

5月13日(金)・14日(土)に本学部生、大学院生及び専門学校生を対象として、コロナ感染症予防対策をとりながら内科健診、胸部X線間接撮影、尿検査、身長・体重測定等実施され、100%に近い受診率であった。

学 事

歯学部行事予定

- 8月20日(土) 第3回進学相談会
- 10月1日(土) 大学院歯学研究科入学試験(第1期)
- 4日(火) 日本大学創立記念日
- 7日(金) 桜歯祭
- 8日(土) 桜歯祭・父母懇談会
- 22日(土) 外国人留学生選抜、編入学・転部試験

入学者選抜等

令和4年度歯学部入学者選抜(実績)

一般選抜	試験日	志願者数	受験者数
N全学統一方式第1期	令和4年2月1日(火)	247名	186名
N全学統一方式第2期	令和4年3月4日(金)	127名	90名
A個別方式	令和4年2月3日(木)	290名	250名
C共通テスト利用方式第1期	—	117名	108名
C共通テスト利用方式第2期	—	23名	22名

令和4年度大学院歯学研究科入学試験(実績)

	試験日	志願者数	受験者数	
第1期	一般	令和3年10月2日(土)	5名	5名
	社会人		0名	0名
第2期	一般	令和4年3月5日(土)	19名	19名
	社会人		8名	8名

科学研究費助成事業交付決定者

☆基盤研究(B)

小林 真之 山本安希子 鏑田 武志

☆挑戦的研究(萌芽)

山本安希子 小林 真之 鏑田 武志

☆基盤研究(C)

今村 佳樹 飯沼 利光 篠崎 貴弘 好士 亮介
山口 洋子 坪井 美行 大橋 一徳 人見 涼露
林 良憲 津田 啓方 武市 収 高橋 富久
浅野 正岳 中山 淵利 篠塚 啓二 野間 昇

Table with 4 columns of names: 岡田 明子, 中野 善夫, 佐藤 秀一, 李 淳, 田村 宗明, 岩田 幸一, 高山 忠裕, 大原 絹代, 新井 嘉則

☆若手研究 渡辺 孝康, 中谷 有香, 平場 晴斗, 本田 順一

☆研究活動スタート支援 梶原 美絵, 岡野 雅春

学生生活

特待生と奨学生

= 日本大学特待生 =

Table with 4 columns: 第2学年 田中 憲聖(乙), 第3学年 澤田 昌志(乙), 第4学年 高嶋 優也(乙)

= 佐藤奨学生 =

< 第1種 >

Table with 4 columns: (歯学部) 第2学年 五十嵐ゆり, 第3学年 天野 真未, 第4学年 竹内 維吹

Table with 2 columns: (歯科技工専門学校) 第2学年 平井 志奈, 第3学年 平山 綾乃

Table with 3 columns: (歯科衛生専門学校) 第2学年 荒井美寿々, 第3学年 小池 真咲

< 第2種 >

Table with 2 columns: (歯学部) 第6学年 新井 勇史, 飯村宗一郎

= 日本大学古田奨学生 =

Table with 2 columns: (歯学研究科) 第4学年 廣兼 榮造

= 日本大学ロバート・F・ケネディ奨学生 =

Table with 2 columns: (歯学研究科) 第4学年 小方 彩乃

= 歯学部同窓会奨学生 =

Table with 4 columns: (歯学研究科) 第4学年 高野 了己, 中村 健志, 星 まなみ

お知らせ

寄付金の受け入れ

= 研究助成金 = (6.15現在)

Table with 3 columns: 20万円, 50万円, 50万円, 50万円

編集後記

歯学部本館では初めて、そして現地開催は3年ぶりとなる歯学部進学相談会が7月10日に実施されました。真新しい本館の講堂、実習室、図書館、ラウンジなど充実した学修環境は見学者に好評でした。

表紙の写真は佐藤紀子先生(健康科学分野)にご提供頂きました。

第215号 日本大学歯学部発行 東京都千代田区神田駿河台1-8-13 TEL 03(3219)8001